雲妙間雨夜月

四

へ18
於
195
4

へ13
195
4

大藏省官版
大政紀要
第三

蒙求本

検 13 特
195
4

雲煙間雨夜月卷之三

東都　曲亭馬琴編次

第六套

深山路の枝折

四啓法師の五慾の火坑より蘿落してのがるゝ近江路より。物たゞ牛を杖
にとり。潯陽大津の市より牽ゆく。路限より完。遂より鎌倉を投してゆく
けるゝ元ようのとゞぬ猿をれば。東海道をゝ冬も半を過しぬ。ある日箱
を越るところ。底倉よりの東のゝ十町ばかり。樹ある山寺より五ゆきゝ
彼此の風景を眺るより。境内究ゝ廣うゝゞとゝいへども。由緒ある精舍
おゞゝゝ本堂より。寺名寺の三字を大書ゝる額をかゝゝ
二年夏五月。義貞朝臣鎌倉を攻めひしゝ沈り十ゝ
錯宗ゝ中の墳墓

戦よ敗死す。官軍宗徒の兵士ホ墳墓あり。院内寂寥と
人ありともえざるべし。聽く走り出るとれ門前まく。樵夫の山より
よおくりそのとき西啓彼樵夫を呼びとぶめその名寺とでんの名たる彼
の墳墓もあるをおどろく物さみしげなるそもこれの時よ行人の
建立したる今は住持もなきと聞よ。樵夫答て。彼道場は行人の
とうとうたるといふもあらと。開基の老僧は。瓜新田の家臣。紅田何ゴが
子なる故よ主君の一族伊豆相模ふく対死しぬるとぞ。墳墓を築て
の菩提を吊ふ。ちなの移りさて。ちうる菴室をしが。彼僧経歴よりて
て。節儉を常とし平を強て。堂宇全く成就ふるるに移りをく
件の住持六十余才なる。近曾遷化ぬ。ひねもすよ不生不滅
なるあるふや。臨終三日よ至て。往生ぬ遂ぬ。ぬ死さまいと
俄ぬ。ありたさる得る年未擅ト布施ども。一張も散さど
ちく貯えるのうち。その足をそらんとく人ま貸けん又
賊難をあれて。土中ま埋うん。後ま穿鑿ぶ。一物
う。さく弟子の弱僧後住とうしぶ。夜ハ行くく物の妻ぐらいも
ねら引ぬ。ありて同病の所化小僧新発意をでる。居らぶ。ぬ移ま逐さ
先住の寛恵。夜ま。あうん。ぶ物ぬ。せとく。現住の弱僧を責しぶ。
彼僧怕ま。逐電しつ。その後檀越の徒さまぶま後会しく。後住を
定めんとさるま。ぬ。ぬ。ぬ

雲絶間巻三
戒壇石の
羅文

雲絶間巻三
金

る。いと苦くしく。あはれと田舎人の心ちやうとて。問ぬるもてくの長くしく物うらんが。西啓問うてげよかるるもあり。又十戒五通の老法師も。最期の妄想まかりて。宿覚を夢とるあり。憐べしく。と回答つ。鉦うち鳴らし回向する間。樵夫ハやがてうちぬ。かくて西啓そ。東の山路をすくるる。又十餘町あくて。そや日も暮ぬらん。さてくこの日北風さ。けてくるみの宿る家もなく。そや夜ハ

こるる。大磯小磯をすぎもとそ。あくまのそぎとやらぐくしく山をひり。袖敷が浦曲を過るとて。夜ハ既に更闌て。磯うつあら浪千鳥の声。いとど寒さも弥入くて。さあけて月に送て。折くもあれ。磯別松の木蔭より。もどろくしく大男つと走て出て西啓が胸さををとと。笠の内をさくく覗つくいとゆうしく

ばさたる幸ありさいく夜う浦風に吹たきたくしく立わらくつるよさて一人の法者ふあんとさてく羅に懐まるるのハ老ひそとて仏法をあり。遮莫その藏袈裟剥とくくく一杯の酒に撥ん。いとくる怕き。そもしのひも果ぬ雄ぬの巻と握り固て。打仆さんとこそ揚ぬ。西啓ハさるこる気色もなく。あハらる陽杖とりのほーく荒男が向ハ脛を丁と拂へハ横さまに。撲地と顛ぶ所踏跨て。ふむさるやうとさらんくこ。偖処に。既ハ毛髪のどくる。衣ハ海松のどくる賊僧忽然まり来つ。奈驢逝とくく脇をべさくこ。ほびくく朴刀引出こ。ちんとさて。沢西啓佶と足くて。秘密の印相を締ぐるに。怪恵仙前骨疎縮て。立る隨に動を沼ぬ。只目を瞬口を開ぎ。ちんとべくげるにくくや寺倒さんくる荒男この形勢を見て

驚死。やうやく小記ふるひ砂よりまとを著額を理め神僧ねがハくハ
怒をかさえるく吾倅を放ーゆく。ちーや弥勒の世ちハりしうるも再び
このうちうく旅客上樹ひつじ。惱ーハいづと勸解ちうハ西皆えんか
つうく吟味ひ仮ホるどうくえんどめの猛威あハ似ど。ろ丸蘆をもと
うくどのぞ祈ーいのぐ切まとうハよ。賊ハまとく額つきうく仮伏
ちうきふあうハのれうう。西皆うさ祐ちく。仮ホ引剥をいさーるぐう。
物のうくうも。物のうさねもうえうたゆざるとそ泡ちーくまとれハ是
雲水乾湯の素門ん。銀牙の虎ハ剥ちーくもそうさぐさ物臣。うさ
仮ホが面鬼。物の用ちもたうべく見えるぐういうれが山浦のう戒
とハ牙仮ちうる。ちぐその名と皆とこいべ。荒男臣を撥ぬく谷降
ちううく。ちもが何ちれ宣ハるるハ障特ハ

固ちるうりうるとが放ぬくとハ仮西皆ちあぐど呼ーとうち笑ひうまと
這奴ぐる仮ちまとうう。さうハ免ちぐしーとれとうホようとうひうけて。
二三十歩あるさなる。松の根ち尻をうけうう。そのとた件の賊が手足。
舊のごくよりしぐ色彼果まうく顔うちえあふー二人のうとも西皆
ぶほうちホうう。左右ち踏帰ーさていふやう吾倅ハ越の國さて山
の蘇ホ生まとうく。ちるぐ久ちうち笑ひうまと
てまううハも。物ちまーちるどもうぐ毒ぐ
湯ハいうーち牙の行ひを放ちーう。親族ちも疎ま法國を伝信ーう。
近曾この相撲路ホ漂伯ー緑の林ち立うれうく引剥とうたうりうちあう
赤うまどうも栖を泥ざうまち底倉ちる。ちる受ち谷寺とうふ山寺の住持年末
衣嚢ふうくうう。死ざまあーうまうぐ同宿の生道ち号。彼亡魂の迷ち

生んうとうく。害怕て屋しまどろ[illegible]し[illegible]ば[illegible]。吾倘竊に示おわ[illegible]。
ある夜件の寺ふ潜びよりて。先住の寛竈と并扮呉[illegible]とりこり強
されてる後住の青道ぶを威せ[illegible]弱る。彼ひく駭怖まく[illegible]へ
たりぶ逐電し怨恨受く仮の廢寺とりぬ。よりて吾倘彼寺を栖と
し夜ハ彼此を徘徊しく。猿客と刼を。僕ハ名を黒映の雲叢と唱れ
彼ハ白映の雲哲と名告ゆ。抑神僧ハいづ[illegible]の霊場より来あひる。
法津ハ何と稱へ[illegible]ふ[illegible]ん。と真実ぐたちく向バ。西啓莞然とうち
咲く。[illegible]ぶ俗姓ハ雨田氏ぬく。近江國武佐の山里ふ生れ。[illegible]やく又母
を喪ふ[illegible]ぶ祝髮しく摂津國ふ成長下らび吳山の雲を仰ぎて。
法名西啓と呼ぶ[illegible]ぶ掌寂威の教を并ぜど密ふ孝蘇の[illegible]遇
と義く。且く流水ふ身とを[illegible]。人間ふ[illegible]

たりぶ底倉を過るとく。[illegible]寺のる様を樵夫が物がたり
うしが。外来のやうふ[illegible]ぶ。さく[illegible]ハ先住の寛魂ハ汝ホが計策
あくありけるう。仮価おく[illegible]の[illegible]を[illegible]ふ似されど。その謀
拙し。世紙怪り。迹を埋め[illegible]住の山寺ふ躯まくうとる。別ふ志ひ[illegible]し
たるあくハ。何の楽ろあらん。[illegible]ん今ふの顛末を咲く。更ふ奇計を
めぐし。輙く里人を賺しちらへく。彼寺の住持とくんるハ翼
あるてのうちふあり。仮ホ志ぐし彼亦を立てるれ。[illegible]彼寺ふ住持
まとぶ。[illegible]を圓らうあ[illegible]。行僧ふ并扮西啓法師が徒[illegible]と
稱く。[illegible]ふ易来ふ[illegible]バ酒ふ富肉ふ飽かく俳風ふ吹[illegible]
されく。命を的る[illegible]ぶ[illegible]香ホ[illegible]うんと説示ヒバ[illegible]
黒映大ふ歓び。[illegible]倘[illegible]ふ[illegible]師又既[illegible]

西乱
壽堂

吾衣を愛しのみ入るを。子のごくうるみいりてうを見毋のいつひをうしくく
隨後せざるべた。とるかくよよたよ計策ゆへ。翌より且く彼寺ゆ立て
妻ゆつじと。爲々見バ西陲うち京ゆく。後ホ明白ゆ彼寺へ易来る日。
廉忽の挙動しく。里人ゆ曉ゆるまるく。暗じて如此くゆ。せ。
るれ又簡様くゆらゆ。ゆほそのるを捉ちくされお両賊
まちく笑坪ゆ入り。肝膽を傾くられを図ゆ再會と契るほどゆ。
忍ひの外時もうりく。曉方ちうくうりしゆ西陲ゆをう立ゆがりく。
備曲遥ゆ別ゆ去れバ白映黒映ハ舊の拡蘿ゆ立躰ゆて。往方る
ちゆどうりゆり。嗚呼彼覺僧原仔等の悪星ぞそる虎狼ゆく。
今ホその翼を得ゆり。好計悪民を絶ゆ足るゆる。天羅終ゆ偏を
とるゆん。ゆい憎ても憎ゆさん。梟獍ゆるゆの外道ゆり。見かさゆわさ安

名寺の現住ゆ前の院主の弟子ゆく。年ゆ弱く才学も学ゆ拙さ
生道ゆおゆあひうど。山寺のゆゆゆび。檀越ゆゆるゆく。住越を嗣し
たるゆ。白映黒映ゆそうゆれく。先住の幽魂。ゆほゆ手ゆ愛惜ゆと
ちひ惑ひ頗ゆその崇を怖ゆく。人ゆちゆせび行装ゆつ何地ゆも
ゆく逃去うび。檀越の良賊ゆゆを歎た後住を居んとゆく。
その人を家ゆゆ抖藪行脚の老僧ゆゆ。ゆゆの容子ゆ怕して。
るれ住ゆんとゆのゆく。遂ゆ受く住の空院とゆりて。狐狸その栖を
ゆるゆりゆゆゆる。西陲ハ白映黒映ゆ列ゆて。次の日。ゆゆび底
倉の山家を募化しその外ゆゆる。名寺のほとゆる草舎ゆ
宿を投しゆび。あるじゆ失婦信ゆ。ゆちゆ歎待しく夕餐をそくめ。四表ハ
表の物ゆゆの序ゆいゆる。師父ハゆほゆくゆえゆの名利

を損ず雲水と伴をなすべし。いとそるく貴ぶべし。此の異地こそ[illegible]

東國の人こゝに来ぬものを。若しこゝにば結縁の為に名告るべ

うとしの。西宮ゆく。累僧ハ律の國なる。何ぞの院れ徒弟なり。故

あつて近曾彼処を辞し去る。法國を徙行しく。普く衆生を済

度せんとそなのく。されば為に宿り風に飡ひ。野に野さらしの旅に死

んと願ふ。汝なまじ名告らんを嗚呼ゆゑ。かくてぞなりくに観

念を勧るなりぐちハ[illegible]。どいと殊勝なりしく回答をるなぞ。

夫婦ハまもく感激し。師又固より衆生済度の志ふくゆゑ。

ちぶしの里よりぐそりて。ちうねき人の寛恕を請め。廃れ寺を

興しなりんや。ちくしばその功徳莫大なりんとしの。西宮ゆくを

の中間より彼び。母ちくぞ自くく勝ををくめ。ちくしとこうしろ

うる故ぞ。ちぶ審に物ぐさなくとしのへ。主人うさねく。てに来ぬ

えぬしこゝにんるぶ家の西ちくふ。サー引入まてろ並松の隙より入る

大門ハ云名寺とし道場なり。閑墓の僧。年来吝嗇ふるアーが近化の

後さまぐの怪異あり。ろて後の院主をえでめ。ゆるゆるれく逐電し。

入ーくゆ行よ。くゆへば。擅郷清中さまぐふ祟合しく。彼に相語。

を誘へど。その崇あくんし。ゆゑ絶く需に奥ざる人なし。

師又の彼寛恕と仏脱せしめ旦く彼所に行おしまく。一郷の幸

福なり。いふ諾ひなんやとりに西宮答く。夫慈航ハ渡ざる

衆生をく。慈雲ハ掩ざる邦国をうれ苦を接楽をるハ仏

慈悲なり。寛魂得脱のるハ仏細なし。入院のるハ只今様なり

れ今夜彼処に止宿しく。ちの為体を試んとしの入ふ。

おくとていひとりけり。こゝを行嚢を脊負ひ。湯杖を引掲げ出
でゝ主人夫よりとびく。猛ふ松明をふりてし。先立て誘
ゆくまゝ。こゝまぶ妻ハ身ほ公のとうるれどさりともひくく。
扉戸のほとりまぐ送り出ぶ夫らくゆたく。そく帰りあくこゝらば
ちとそゝだのめて。虚くと夜を深し。例の冷き堂みく。頂とな
推ゝ丑ひそ。とりく声る。山川の音ひめしゞまを隔らまく。
更の撞のく幽ふ響ふ。かくく西谷ハ。あるじふゝみすちゝれく。こ名寺ま
到り。松明をあげさゝく。彼此を見るに松縁ふハ獣の蹄を印し裡ふ
巣の糞のく唯高く。雨垂ふ壁の張弓刹る。蛞蝓の跡を引牽る
の隅ふ蜘蛛の網とりかけさして奇しを白光を操て護摩壇の灰
ハ狸の尿ふ湿てく。臭氣鼻を撞ふ傷ら。そのとを件の男ハふたけ

る席薦三四疊を坐の中央ふ敷まゝべ西谷を安坐さしてふゆう。
あの丑ふこゝや退るゝう。翌ハつとめくまりり坊ひまるべし。り寒
けくふ。何よそれ井折く焼火しぬくとく。ようづ叮嚀ふ火え
あをくゝゆうしがその夜ハ妻とくるふ西谷がるれらひて出くゆう
とるもくく夜をあらし。横雲の中引こさとろ。近隣徒を記しく
前夜のる沢告るふ陪ふあり。頼りしくとくるりく。こるのうとる
ふ彼の男を先よらし。こ名寺ふゆこくえ丑ば西谷ハ甲夜のそしふ
端坐しく。異する気をるれば件の男されバとくとくく起
ひ。近隣里人ふ。こる公のとうるくらひく糸見り。いうふ怪しきる
るくゆひしくと問べ。西谷飛人をちく招さ。彼男をこ人くく
いふう。その風説くく言ふあらば。前夜前住の寛慈面あり

うまとく。その寛苦を吾頭よ済度を求しべ。これ法を説寂を示し。
剛経一巻を続く引接せり。今ハくや 仏疑ひ。それよ就く
べたるあり。檀越の黨ハさく。年来の寺よ疎うざしのをび。悉
く集合ゆと滅しるゆ久ちくをんべ。衆人渇仰隨喜の徴をう
たくひつ。数回西宮を礼拝し。宮よの師又ハ活佛ゆく かりせば
とそ。さしもうねさ寛恵の。頭よ朱仏ハちるらめ。何ぞ男ハ早仏
の用意しく進くせよ。彼ハ五七人の壮侯とる。構中よあまちく
せよちく。ものくそのみをけをらさし。僅よ二三人を残しあたく。西谷よ
陪侍さしその化のものどハ応しけよ走り ちりしぶ。碗折敷よ至る迄
ゑを用ひさうと又ある家具を。三人さし 擔ものく服を盛 蒸美を係
れを西宮よちめいと叮嚀よ 餐しうり。さる後よ彼此の里人

悉く名寺よ群集ちく所せきちぐ居うりぬを。西谷佶とんまち
て。今ちく小来えるもの。誰う先住の金をあづうる。その人寂を幸よちぶ
ぶしくいひも出ざる。明白よちしゆとらのよえく苔るものは西谷又
声をさるしこれ前夜先住の寛恵と問答しく。ちくその人をちまうかく
てもるを伺後うをちうりく脱人とせば。園宅の老弱その祟を禀さ
ちえ 一人も住るものあじ我ハ時疫。我ハ癘疾 種くの難病よ係りて。卯耻
をさくさんちりへ一言の一ゆよ先北を悔く。悪報を脱ゆ。いろみやいろ
ぶうくれば。忽ぶ年の齢五十あまりの男ちぶりく這出くちるて
かく 發覚るくくハ逼ようはは。某年来前の院主ちう金を隠ろうこ
ちら 彼此の人よ貸く。利子を債う。借る人ちうハ嫌恨を受院主ちうハ辛
ちい 後とるくその蔭を蒙るとえーうしよ。院を既よ今ゆ去ひしく

こゝろゝぬ公發ゝゝ密に同宿の法師を相淸ひそ。の形を盜ゝ
しんべ。こゝるゝぶ物のとゝろしゝゆひしげるあはをそぎたりのゝ。
近曾先住の寃魂夜ゝあらんに出ると世毎に人をまどらゝその
を苦しめ。後に俳頻梨の境にうんさんゝるゝふぐり。預りゝる金の利
如此ゝふゝり。に形にゝゝ返しまるべ。師父祈ゝゝ身ゝぶ妻子
の命を救ひゝくとゝ。ゝを必ゝりの面とあはし。衆皆舌とまゝゝゝ。
西替をする敬を西堂又件の男に對ひ。善哉懺悔あれ五逆十惡も頓滅
せざるゝし。仮使にその金をとり來を。これ加持しゝ。後の禍を禳ひ
ほさんべ。に悲ひんべゝゝ。一殘らずとも仍りゝくさぶ。これも又粉ひ
がゝ。努忍にゝとゝんとゝ。その所ゝふりのゝしけるが彼男ゝゝ
威さん顏色蒼ざめゝゝ。ゝて家に走りゝり。人に貸るとべあれが金を
加ゝ。その數に合しに返ゝ來ゝそ。これを西堂に遍に
けるべ。西堂八里人ホ。ホ金とに取をゝ引ゝゝるゝ。さゝ二百餘金
ありんを舊のゝゝ押包ゝゝ。ゝ和長がほゝに置。さそゝゝのの
金を返ゝるゝゝゝ。その主供しんべ別ゝゝべき人ゝ。ゝれ
べ先住のゝ。追薦の法會を修行し。ゝ。ゝ撰を
修行後し。を造ゝ。莫大の功德をゝ。亡靈追善ゝゝ。一鄕の
良緣。ゝゝゝゝ冥福を業るべ。その期ゝゝべ。誰ゝあれ。この金を
あづゝりゝとゝべ。里人ホ。もゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。
東の間も藏ゝりゝゝ。師父見ゝ行囊の内ゝ藏ゝゝ。
そゝゝひゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝ。ゝ西堂に。ゝ。又ゝ。
ゝ。師父ねゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝの寺ゝ。

究竟負地獄。吾僧公のみん祈へ。冊さきまぐーとり西袋に
てこれこのくじめ。行脚の志めりくく。いそぐ日本一千國とても廻らぐ。おろ
と衆人よ抑留なくまくく。この山よ老朽んるん。情愚おめくぐ。えあ
今苦ふ留らくくと。ぐ下ふ繁り捨くく別去んへ。弘通僧度の發願ふ
るん。こんふ同行の往来二人あり。彼ふ駿河路ろ後まるがいそぐ来
らぐ。ぐや逆くくる。西三日の間あへ易ふつぐー。このものぐるとく殺命ぐ。
さくく回答とぐさうりとくふ。ふを丈人ふるん懇切ふさくめくく。この日ろ
院主と稱へ俄頃よ内外の掃除しく。檀越の薫ふ彩何ぐれとるく。
ぐれと奇逆ー。ぐるく給侍ーて食應まとくく厚ろる。偕如よ伝
映黒映へ。ぐ隙ぐ示ーめくせ。るるんば。阪数と刺ぐるめく。行僧よ
行扮。庶倉の夜家を徘徊ーく。かるる行衛の僧の東へ過るとよ
ぐやとくく。易まどくるおめ。ちーて向ふ里入ふいられ西袋が同行の
往来ぐるんと猜ーく。篤くく部ひ。云名寺よ誘引くかくと告まるば。
西袋ぐくく白映黒映を呼び入まく。假よ別後の情を述ふ里人ふよ
ぐやくまくく。已をとるぐ。且くるる寄ふ伝扣ぐるるーふ笑えるーしよ
るる。件の西人るるを奪くくいと職ーげる相語ふぐ。里人へ寃魂得
脱の旅装を物くくるる。瀬ふ西袋を稱讃ー。暇告くく帰りる。かくてぐ
西袋へ外計既ふ成就ーく。紙びちくと限りる。白映黒映ふ里人ふ
を親きたる紙を説くしくれ汝ふがかるくの物語と。又里人ふが乱
を猜ー。かるる寄ふ迷物のうたくるるくくび。密くふ先行くる金と
あづくる。くくどぐ母ーく居るのるくてぐとくびくるび。箇様くくのるく
ーくく伝りくく威せー祝ふ忽地ふ二百餘金ぐ行くる。女才既ふ去食

住よりて只うさんうらうべ麁忽の言行しらく。妖の皮をうちれすと現
示し。彼等十金つくろちらくしらべ二人の戦僧大よろうびうるが師い神
猿妙算ハ釈迦も達摩も量ちりぐるうん。仰うけあうりぬ。ろうあ
くうひあくと回答しらく。のくくくく冊くくづ冊く祝よ。西賀ハ。俗姓雨田うう
りくく。うづうう雨田法師と稱へ。白映を白雲とはび黒映を黒雲とは
び。言を巧みくく。里人を欺あくうる。虚名近国に洋溢し。毎日ふ老弱群
集しくく。結縁の為十念を受。又病疾あるもの。加持を請よ。ろくうの
ろうの信ろう。功験あるもうろう。ろ況ろくく愚民ままくく信をそ。
その徳甘雨の拈搞を記そがどく。その名四方ふ雷同ればくく。遂ふ
雨田の二字を合くく。雷法師と與倣せう。夫賢と佞ろうその行ふ
不相似くく。その欲ろうとろう天地懸隔ろ。昔周公聞の為ふ士ふ

ぐろうく。うを説論を脱ふあハさ。僕の王莽逆を謀ろ士ふぐる
とを。時の人ろれを賢ろうとろく。帝言ふらく。盗跖ぶ犬舜と吼夫
盗跖ハ魁首ろう。舜ハ聖人ぐ。ろうんども犬の舜を吼るものハ只
その主をろうく。賢愚邪正をろうざるべく。嗚呼賢愚をろうどーく
ろれを識さハ所謂盗路ぶ犬ろう。邪正を濫ぐくろれを信ぐるぐ。
所謂王莽ぶ従ろう。一犬形ふ吼く。群犬声ふ吼。ろうんどもその
吼る不以をろうぐ。一盲衆盲を引てられふ従ざるものハ。ろうれ
ぐろうのあくぶをろくび。ろんばば西賀ホぶ対悪ハいふもさく。里人
ろれがろふ惑ろんしハ。奇を好むの愚ぐ。彼ろうるも憎むぐ
とるる又誠ろべ

第七套　倭文ふの雅鳥上

光明真言十方世界

主様一取不捨

白うん法師

ちゝゑ又伊原太郎五武泰が妻蓮紫ハ。嚮ゑ武章が近ハ[illegible]
後。夫ゑ[illegible]。放[illegible]柱山せゞ[illegible]。蓮葉を門方へ
出さゞ[illegible]。日毎ゑ夫婦[illegible]ひあり。なをゑ[illegible]年ゑ暮
れ。春を二月の天麗なるゑ。蓮紫ハ絶ず漫行をとゞ。剩
疎〻を夫と。永き日ぐ〻さ[illegible]ひ居るうれバ目上ゑ痛の出来[illegible]
ゆうゆく。ゑ鬱〻とあ〻[illegible]。[illegible]師が法驗掲焉[illegible]を使く笑。むう〻えゝ。その人とゝ[illegible]ねど。せめて彼まへ詣[illegible]ば。ゆ〻しゝゑ[illegible]
を〻めとらゆまゝ。古郎五吠[illegible]。[illegible]名寺ハ。古主新田殿一族の墳
墓もあり。此春ハ物ゑ紛[illegible]。[illegible]
[illegible]ゑ詣さ[illegible]ゆ。蓮紫ふ[illegible]。俄頃ゑ
雜拾し。[illegible]衣服を被更下ゆ[illegible]名寺ゑ詣〻が。群集
ゑ押隔ら[illegible]。法座のほとりゝ[illegible]著まゝど。人の後方ゑ
あり〻。つ〻〻と彼雷神法師を見るゑ。いゆる秋神崎ゑ。
假初ゑ一夜さ[illegible]。西[illegible]法師[illegible]。[illegible]と胸打
さゝ[illegible]ど。ゆのゝへ[illegible]ねバ。ゑの日ハむすく立ゆ。
西三日の〻ち。又夫ゑ告ゝ。[illegible]名寺へ詣んとをるを。ちゝゑ[illegible]
〻られを許さゞ。[illegible]近江へゆるとゝ。固く禁〻。勤仕の外
へ放[illegible]柱山をるゑ[illegible]れとゝひさ。さゑ[illegible]ばとれさく[illegible]居
ゑ。[illegible]ゑ婦のゑ[illegible]ハ[illegible]寺へ詣るとも。ちゞく[illegible]
去ゝゝゞ。武章ゞ[illegible]ゑ[illegible]日ゑ遠ゝゞとゝゆゆゑ。今ゑ
〻待ゆ。とゝゆゆゑ[illegible]蓮紫ハ聽を揚。声をゝゝ立れゑ[illegible]ば

むくるぞ。弟を怕るべしぞ。彼が家あり。彼を守る神あり。彼が家あり我をまもる神あり。彼ひろぐ家のあり曾ハ。ひろく癌の發るうう。そるを神僧の加持を受く。病苦を助らぬ。とそのものを妻ハ死して。生のひつるあハさるあり。ひげの夫ありせべつまそひ居るもそのうひあり女くしを人よ養られば親族あさ蔑られ。この煩脳をあるとて我ハ罵り我ハ打位るく怨ぞれぞも。ろうの回苔をせば。されがとて夫の許さるる死。初とろ彼寺へゆきざるる。蓮葉を人ろ是ぞ。苔を日をあるる。既よ弥生のぐめよるりつ。二日の夕ぐれ雛棚へ梔の枝を挿んとるる。初とる庭へ立出臂ぢうる枝を見繁るるとて折るる青き猪婆蛇。その枝よ登り居るぶ。驚たるん。蓮葉ぶまえへさるくと走る来まぶ。打咽と叫びて落る枝をうち揮るぞ。猪婆蛇ハ筧の縁ら打中らと。仰さまふりて流まるる。とるもるうぞるる蓮葉ハ。後ゆ入りうんとる。花を打捐る。裳ハ裳袖をうち拂ひ。いと奥るくく内ふ入るぬ。かくて結朝奴隷丁奴ほのるるたうる起生る。茶釜よ水を汲入れ茶を烹飯を炊きうぐる音ハ笑る。めぐ者卯五。臥房と生る手ハ洗ひ。ちぐ雪の山鶯ふ餌飼をらさし。窓の戸引明て。庭の掃掃とみる居るよ。蓮葉ハいぞさるる。絶く一朝も夫とるもふ起るるうるべふ且る熟睡しる。いるぞ寐ぞ。丁奴ハ。茶を烹果るられと主人よ進るとまぶ。者卯五ハその茶碗を堂よのる。ろうげよ飲冬さとんえ。忽地茶碗を碓と投一声高く叫びて。血を吐うびる

下女ハこの形勢ふるさく驚き走りうろたへくゝと呼び活るよ。さて五
ハこや俯しよ仆まく。緯郡うり。このとき紀蓮察ハ。ぐうゝね声よ
驚起覚。こゝ何るぞとして起出しが。夫ぐ血よ塗まこうがゝ仰天
主従さきぐふ勦ぐよ。赦くべうもあうざれバ。猛よ近隣徒を呼び
集合てかくゝと告るふ。衆皆右卓五ぐ死ざるの異うるを怪こゝ。縁
故を問ふ。蓮葉答く。うぐ刃ハ頃日乞ねあゝうれバ。今朝も目ち
さめうぐう。ま母臥房ふ行りしが。夫ぐ起出く。いく程もなく死ー
ぬひぬ。その為体うろうろ狂ぐさー。ゆをも上下双仆行ぐ
進ぐ出ぐ。明白よ覚えしとゝふよ。下女も又不審ゝ。僕別よ
進ぐ出ぐるのう。家ハ。日ぐ朝茶を好こゝ。ゆまうれバ。ほのうふた
ぐう茶を急こそく。只一碗を進ぐ出ぐるのくゝとゝふ。蓮葉

三條實美殿
郡便
取上
大隅
稲荷
定日
佐野
殿
定日
翌日
蓮葉